

事業名	③ 一般介護予防事業	担当部署	福祉保健部 長寿介護課 高齢者支援室
-----	------------	------	--------------------

市の取組への評価・課題	具体的な対応策・提案	コーディネーターによる意見のまとめ
<p>【評価○】 ・社会保障費負担減のため、並びに市民の健康寿命延伸を図るため、極めて重要な取組。</p> <p>・少しずつ「いーばしょ」が増えているのは評価できる。</p> <p>・居場所づくり政策は、調査を行いしっかりとした根拠がある上で取り組んでいる事業。</p>	<p>・市民への周知向上が必要。CATV、防災無線、金融機関、病院等人の集まる場所へのポスター配布、各地域の回覧板に案内をつけるなど。特にHPが見つらいので、改善すべき。</p> <p>・現状の「いーばしょ」での活動は、主に屋内かと思われるが、屋外での活動も、行政案として示していいのではないか。</p> <p>・男性が何に興味を持つのか、「いーばしょ」に参加している男性にアンケートを取り、分析してみようか。その結果、役割分担や属性を持った繋がり、男性専用の「いーばしょ」を作ってもよいのでは。また、男性が参加しやすいように、まずは個人で行うアクティビティなどを作ると参加してみようと思ってくれる男性が増えるのではないか。</p> <p>・学生ボランティアの検討(SAT事業の健康科学大版)や民間デイサービス、自治会との連携、障害者の居場所、はつらつ鶴寿大学や公民館教室・公民館学級で活動されている方々、市役所OB、教師OBなどに積極的にアプローチしてはどうか。</p> <p>・リーダー候補を他の「いーばしょ」へ連れていく体験ツアーを実施し、「いーばしょ」づくりに繋げてはどうか。新たな場として、エコハウスなど、他の団体が行っているサロン活動と共催して実施できる機会を増やしたり、寺院が多いという都留の特色を生かし、人・場所・情報の提供も兼ねて都留仏教会に話を持ち掛けてはどうか。</p> <p>・過疎集落では、開設や運営が難しいため、徒歩圏内にこだわらず、他地域からの参加を受け入れている「いーばしょ」に参加を促してはどうか。その際、足の悪い方、交通手段のない方への送迎サービスの検討。</p>	<p>コーディネーターによる意見のまとめ</p> <p>・既存のいーばしょにいる人に話を聞いて広めていったらどうか。</p> <p>・男性専用のいーばしょを増やしても良いのではどうか。</p> <p>・男性が一人でも入れるような新しいテーマでイベントを開設したらどうか。</p> <p>・男性も趣味が合うような人であればつながれる。</p> <p>・〇〇学校の卒業生など、属性を持ってつながりを持たせたらどうか。</p> <p>・どのように広めてくのか考えたときに、いーばしょが少ない地域を攻めたほうが良いのでは。すでに行っているところに出向き、リーダーを養成しては。</p> <p>・障害者の居場所は現状、作業所になっているところが多いと思われるので、そこをターゲットにしてはどうか。</p> <p>・お寺をハブとして、住職の繋がりをいかして、周知しては。</p> <p>・男性を参加させるためにしごとなど、役割分担を明確にしてはどうか。</p>
<p>【評価△】 ・拠点、参加人数とも増加しており一定の評価はできるが、まだ市民への周知が不足しているのではないか。</p>		
<p>【課題】 ・「いーばしょ」未設置地区があること</p> <p>・男性の参加率が低いこと。</p> <p>・参加者の様子(身体的な問題の有無やうつなど)を把握する必要がある。</p> <p>・運営リーダーの確保。</p> <p>・市内各地区ごとの介護認定率を把握し、介護認定率の高い地区には特に注視して取り組む必要がある。</p>		